

令和6年
能登半島地震

大学の取り組み

金沢大学

国際部留学企画課長

山本秀樹

氏



1月1日16時10分、令和6年能登半島地震が発生した。石川県金沢市にキャンパスを置き、能登地域にも教育・研究施設を複数設置している金沢大学では、発災の数時間後に災害対策本部が立ち上がり、迅速な災害への対応がスタートした。留学生たちの様子や大学の取り組みについて、金沢大学国際部留学企画課長の山本秀樹氏からお話を伺った。

◆初動と大学の対策
発災直後の様子を教えて下さい。
1月1日の発災後、私どもの国際部では、まずは留学生宿舎の状況を確認するために職員が宿舎に向かいました。本学は震源地から距離があったため、建物倒壊やけがをした学生などはいませんでした。部屋の棚から物が落ちることは多くあったようです。
しかし、留学生たちには声をかけると、地震を経験することが初めての学生が多く、日本人が思う以上に精神的な不安がとて大きいと感じました。玄関前で立ちすくんでいる留学生もいましたし、部



災害対策本部での会議

- 金沢大学の災害対策**
- 1/1 金沢大学災害対策本部立ち上げ
全学生・教員・職員への安否確認メールを発報
留学生ワンストップ相談窓口から支援情報も随時配信
 - 1/4 遠隔授業開始
 - 1/5 ところのケアを目的とした専門チーム「KEYPAT」設置
 - 1/6 「金沢大学家計急変に関する緊急学生支援金」設置
 - 1/9 全留学生の安否確認完了
 - 1/15 対面授業再開
学生留学生宿舎への入居募集、宿舍料等免除申請の通知
 - 1/19 「金沢大学被災学生・施設支援等基金」設置
 - 1/30 震災からの復旧・復興に向けて「能登里山里海未来創造センター」設置

屋に戻るのが怖いと言っている留学生も多数いました。そこで、声を掛け合ったリメンバーングリストを使って、宿舎内にある交流スペースに学生を集めて、建物被害がないことや震源地が大学キャンパスから離れたところから離れていることを説明しました。そして、部屋に帰るの不安な学生に着くまでそこで過ごすことも良いことになりました。

◆住まいの確保
1月5日には、心のケア専門チームを立ち上げました。英語でも相談できるワンストップ窓口も設置していましたが、建物の被災で家に住めなくなった学生には、大学の宿舎を無償提供する支援も始めました。能登方面に住んでいた留学生2名からも、住みについて相談があり、無事宿舎に入ることができました。また、宿舎の高層階に住んでいた留学生からは、怖くて部屋に戻れない、眠れないと相談がそれほど多くありました。友達同士や教員、各部署の職員らと連絡を取り合って解決していたようです。

◆教育・研究活動の継続
1月22日には、交流協定校のオランダ大学の学生が来学して、1週間滞在したそうです。
1月30日には震災からの復旧・復興に向けて「能登里山里海未来創造センター」が立ち上がり、総合大学である金沢大学の英知を集結し、中長期的視点から、能登における教育、医療、文化、産業の復興・再生そして継続的發展を強力に推進するため、「能登里山里海未来創造センター」を設置しました。センターには、復興に向けた構想的立案、心のケア、医療、教育、調査研究、ボランティアなどの各支援チームを一体的に設置し、総合的に対応する体制を整えています。被災地に立地する国立大学として被災地に寄り添い、自治体等と協働し震災からの復旧・復興及び支援に全力を尽くします。登録制にしているボランティアも、569名(3月18日時点)が登録し、ボランティア活動を行っています。◆組織としての危機管理対策
まず、災害・事件・事故はいつ発生するかわからないので、起きた時にどう動くか、マニュアル化してすぐに動けるように備えることが、組織として大切だと感じました。また、宿舎にも大規模な災害時の備蓄員が来て担当者が鍵を開けないと使うことができません。少くとも宿舎には、すぐに誰もが取り出せる形で防寒具や備蓄を備える必要性を感じました。



現地でボランティアをする学生と教職員たち



1.5次避難所での活動の様子

◆災害復興に向けて
1月30日には震災からの復旧・復興に向けて「能登里山里海未来創造センター」が立ち上がり、総合大学である金沢大学の英知を集結し、中長期的視点から、能登における教育、医療、文化、産業の復興・再生そして継続的發展を強力に推進するため、「能登里山里海未来創造センター」を設置しました。センターには、復興に向けた構想的立案、心のケア、医療、教育、調査研究、ボランティアなどの各支援チームを一体的に設置し、総合的に対応する体制を整えています。被災地に立地する国立大学として被災地に寄り添い、自治体等と協働し震災からの復旧・復興及び支援に全力を尽くします。登録制にしているボランティアも、569名(3月18日時点)が登録し、ボランティア活動を行っています。◆組織としての危機管理対策
まず、災害・事件・事故はいつ発生するかわからないので、起きた時にどう動くか、マニュアル化してすぐに動けるように備えることが、組織として大切だと感じました。また、宿舎にも大規模な災害時の備蓄員が来て担当者が鍵を開けないと使うことができません。少くとも宿舎には、すぐに誰もが取り出せる形で防寒具や備蓄を備える必要性を感じました。

◆災害復興に向けて
1月30日には震災からの復旧・復興に向けて「能登里山里海未来創造センター」が立ち上がり、総合大学である金沢大学の英知を集結し、中長期的視点から、能登における教育、医療、文化、産業の復興・再生そして継続的發展を強力に推進するため、「能登里山里海未来創造センター」を設置しました。センターには、復興に向けた構想的立案、心のケア、医療、教育、調査研究、ボランティアなどの各支援チームを一体的に設置し、総合的に対応する体制を整えています。被災地に立地する国立大学として被災地に寄り添い、自治体等と協働し震災からの復旧・復興及び支援に全力を尽くします。登録制にしているボランティアも、569名(3月18日時点)が登録し、ボランティア活動を行っています。◆組織としての危機管理対策
まず、災害・事件・事故はいつ発生するかわからないので、起きた時にどう動くか、マニュアル化してすぐに動けるように備えることが、組織として大切だと感じました。また、宿舎にも大規模な災害時の備蓄員が来て担当者が鍵を開けないと使うことができません。少くとも宿舎には、すぐに誰もが取り出せる形で防寒具や備蓄を備える必要性を感じました。

◆災害復興に向けて
1月30日には震災からの復旧・復興に向けて「能登里山里海未来創造センター」が立ち上がり、総合大学である金沢大学の英知を集結し、中長期的視点から、能登における教育、医療、文化、産業の復興・再生そして継続的發展を強力に推進するため、「能登里山里海未来創造センター」を設置しました。センターには、復興に向けた構想的立案、心のケア、医療、教育、調査研究、ボランティアなどの各支援チームを一体的に設置し、総合的に対応する体制を整えています。被災地に立地する国立大学として被災地に寄り添い、自治体等と協働し震災からの復旧・復興及び支援に全力を尽くします。登録制にしているボランティアも、569名(3月18日時点)が登録し、ボランティア活動を行っています。◆組織としての危機管理対策
まず、災害・事件・事故はいつ発生するかわからないので、起きた時にどう動くか、マニュアル化してすぐに動けるように備えることが、組織として大切だと感じました。また、宿舎にも大規模な災害時の備蓄員が来て担当者が鍵を開けないと使うことができません。少くとも宿舎には、すぐに誰もが取り出せる形で防寒具や備蓄を備える必要性を感じました。

◆災害復興に向けて
1月30日には震災からの復旧・復興に向けて「能登里山里海未来創造センター」が立ち上がり、総合大学である金沢大学の英知を集結し、中長期的視点から、能登における教育、医療、文化、産業の復興・再生そして継続的發展を強力に推進するため、「能登里山里海未来創造センター」を設置しました。センターには、復興に向けた構想的立案、心のケア、医療、教育、調査研究、ボランティアなどの各支援チームを一体的に設置し、総合的に対応する体制を整えています。被災地に立地する国立大学として被災地に寄り添い、自治体等と協働し震災からの復旧・復興及び支援に全力を尽くします。登録制にしているボランティアも、569名(3月18日時点)が登録し、ボランティア活動を行っています。◆組織としての危機管理対策
まず、災害・事件・事故はいつ発生するかわからないので、起きた時にどう動くか、マニュアル化してすぐに動けるように備えることが、組織として大切だと感じました。また、宿舎にも大規模な災害時の備蓄員が来て担当者が鍵を開けないと使うことができません。少くとも宿舎には、すぐに誰もが取り出せる形で防寒具や備蓄を備える必要性を感じました。



金沢大学被災学生・施設支援等基金